



川口市立高等学校在り方審議会について

川口総合、県陽、市立川口の名で親しまれている川口市立高等学校3校につきましては、それぞれ輝かしい歴史と伝統を重ねながら、本市の発展の一翼を担ってきました。

しかしながら、生徒数の減少や多様化する教育ニーズなど、少子高齢化や社会状況の変化に起因する様々な課題への対応が求められるようになった事を背景に高等学校改革の取組みが全国的なものとなってきています。

こうした流れを受け、本市では、平成20年度に職員を中心とした、「川口市立高等学校在り方研究会」を設置し、生徒数の減少や校舎の老朽化などの課題について研究を進めてきたところです。

これらを踏まえ、3校ある市立高等学校の目指すべき学校像や基本的な方向性など、再編統合を含めた今後の在り方についてご審議いただくため、知識経験者、学識経験者、学校関係者及び市民の方々を委員とする「川口市立高等学校在り方審議会」を設置することになりました。時代の要請と、市民の皆さんの期待と信頼に応える学校づくりが推進される事を願うものです。



学校給食食器の改善について



学校給食は、成長期にある児童生徒の望ましい食生活の形成、健康の増進、体力の向上を図るうえで、大変重要な役割を果たしております。本市が学校給食で使用している食器については、破損時における児童生徒の安全性や安価な維持費という経済性などの観点から、長年にわたりアルマイト食器を使用していました。

しかし、近年では、食育の観点から食卓・食器といった食に関わる環境が見直しされるようになり、また、食器の材質についても、比較的軽量で破損しにくく、安全な樹脂食器等が開発されてきております。

そこで、本市では、これまでのアルマイト食器に替え、素材に暖かみがあり耐久性に優れた樹脂食器を導入することになりました。

本年度は、新郷小学校など15校に導入し、平成24年度までに全小中学校への給食食器の改善を図るものです。



子育て応援特別手当について

国においては、4月に新たな経済危機対策を取りまとめ、その成長戦略の中のひとつとして、平成21年度補正予算においても20年度に引き続き、子育て応援特別手当を臨時措置したところであり、本市では、当該事業に関わる国からの補助金を受け入れ21年度分として、子育て応援特別手当を支給するものです。



この特徴は、平成20年度分の支給が第2子以降のお子さんを対象としていたのに対し、幼児教育期の負担に広く配慮する観点から第1子までその対象を拡大するもので、平成21年度3月末現在において3歳から5歳のお子さんを対象に、一人あたり3万6千円の手当を世帯主に支給するものです。

また、DV被害者、いわゆる配偶者からの暴力を避けるために、やむを得ず住民基本台帳上の住所地と異なる居所での生活を余儀なくされている家庭も、手当を受け取れるように、その確認作業を行うこととされており、その作業が完了する12月中旬を目途に約1万4,600人と見込まれる対象児童の世帯に向け申請書の発送準備を進めており、定額給付金の時の様に迅速で正確な対応を望むものです。
※現在、新政府において補正予算の再検討をしている事を付け加えます。



都市農業サミットの開催について



「川口の農業を考える有識者会議」の提言の一つでもある都市農業サミットの開催に向け、これまで、鋭意準備を進めてきたところです。この程、関係都市、機関との調整が整い、来る10月19日、20日の2日間にわたり、都市農業の共通課題を有する都市の首長及び農業関係の代表者の方が一堂に会して、都市農業サミットを開催する運びとなりました。

この都市農業サミットについては、北は山形市から、南は佐世保市に至るまで全国56都市からご賛同を頂いており、全国市長会や都内38自治体で構成する「都市農地保全推進自治体協議会」にもご後援いただくなど、ご協力を得て実施するものです。

具体的には、都市農地・農業の重要性を訴える「共同アピール」の採択・宣言を行う事や国の機関や関係団体を訪れ、制度改正に係る要請行動などを実施する予定です。

この事業が都市農業の復権と再生の端緒となり、今後、日本の農政及び本市農業の振興に寄与するものと大いに期待しています。